



「江の島丸」コラム

人も魚も見た目で判断しちゃいけない

甲板長の三輪です。先日、「江の島丸」でのサバ資源量調査の際、サビキ釣りでの調査を行っていたところ一尾の魚が釣れました。釣った方はベテランの方なのですが「あまり見たことがない。」ということを書いていました。二人して「エソの仲間ですかね。そんな顔してますね。」なんてことを言ったのですが、魚に詳しい友人に写真を送ったところ、「アゴアマダイではないか。」と教えていただきました。浅学ながら見た目で「エソじゃないの。」と誤ってしまい、恥ずかしい限りでした。そして、その友人曰く「かなりレアだと思われるので、採取地点やデータもあれば博物館が欲しいかもしれませんよ。」とのことで、神奈川県水産技術センターに持ち帰り、研究員の加藤さんに同定をしていただきました。その結果、アゴアマダイとのことでした（図1）。このアゴアマダイはその後、研究のために横須賀市自然・人文博物館に寄贈されました。

さらにこの時の調査では検体として持ち込んだサバの胃の内容物よりこのようなものが出てきました（図2）。



図1. 釣り上げられたアゴアマダイ



図2. サバの胃から出てきたアオイガイ

これはアオイガイ。別名カイダコと呼ばれる生物で、葵の葉のような貝殻を持つことから名付けられたようです。こちらはタコの仲間で、由来の通り、その貝の中にはタコが入っています。けれども、その貝殻を持っているのは雌のみの特徴だそうです。理由としては卵を守っていくためと言われています。また、雄はというと殻を持たない代わりに生殖腕という生殖器を持ち、心に決めた相手を見つけると交接しちぎられ、相手の体内に残り続けるのだとか。これを寄生虫と間違われたこともあったようです。そして雄は全長が1.5～5cm程であるのに対し、雌は25～30cmと体格差が6～20倍あるようです。

このように、「江の島丸」ではサバ資源調査をはじめ、底魚調査など幅広い調査を行っていき、それを研究員さんに提供していくことで、まだまだ知られてない海という広大なフィールドを日々解析していくことができているのだな。と何度も感じるがあります。